特集 地域医療

県民の皆様が安心して医療を受けられるように

～青森県の地域医療構想について～

青森県健康福祉部 部長 有賀（あるが） 玲子（れいこ）

県民の暮らしやすさや生活面における県民意識を把握するため、県が平成30年度に実施した「青森県民の意識に関する調査」において、「病気のときに適切な診断や治療が受けられること」の重要度が最も高い（91・9％）という結果が出ました。

高齢化が急速に進む中、健康で長生きできるよう、「医療」を自分の問題として意識されている方が増えているのではないでしょうか。

医療を取り巻く環境の変化

6年後の2025年（令和7年）には、いわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となる超高齢化時代を迎えます。（図1）

また、高齢化のスピードは地域によって大きく異なり、青森県は高齢化率が2035年には全国2位になると見込まれています。

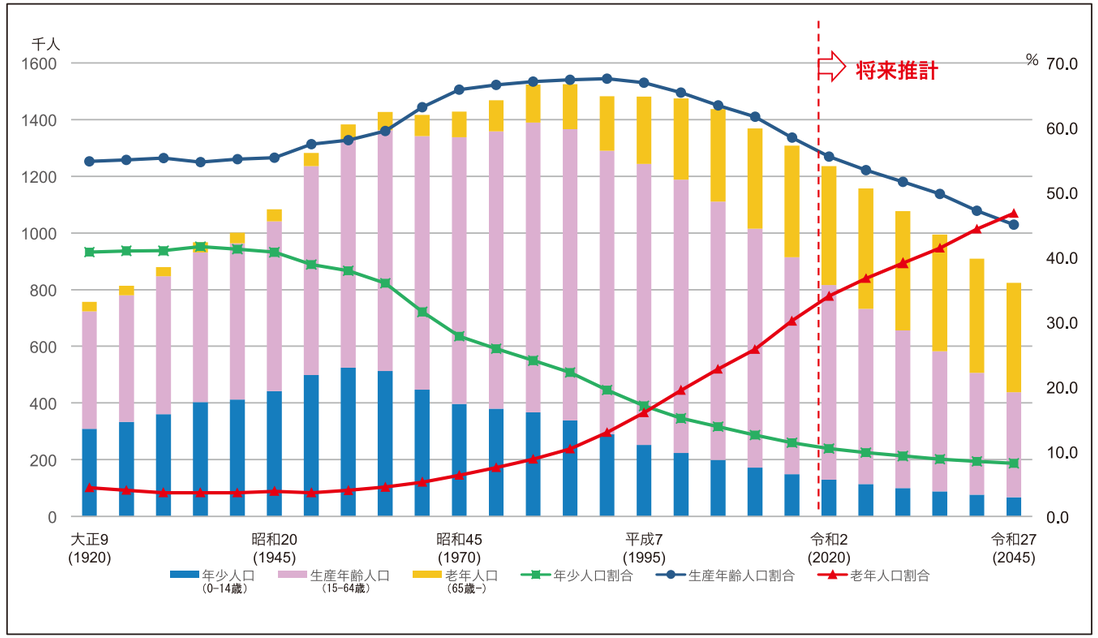
高齢化の進展により、高齢者特有の慢性疾患を持つ患者の増加や、医療を必要とする要介護者、認知症の増加など、医療・介護ニーズの増大が見込まれています。

このような急激な環境の変化に対応するためには、従来の医療提供体制では適切に対応できなくなるおそれがあります。

医療や介護が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、その地域にふさわしいバランスの取れた医療・介護サービスの提供体制を整えることが、喫緊の課題です。

こうした背景から、県では、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するため、将来の医療提供体制の目指すべき姿を示す「地域医療構想」を2016年（平成28年）3月に策定しました。

（図1） 青森県の人口



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）より引用」

将来の医療提供体制の目指す姿

では、将来の医療提供体制の目指すべき姿とは、どのようなものでしょうか。

入院治療には、患者の状況に応じて様々な機能があります。

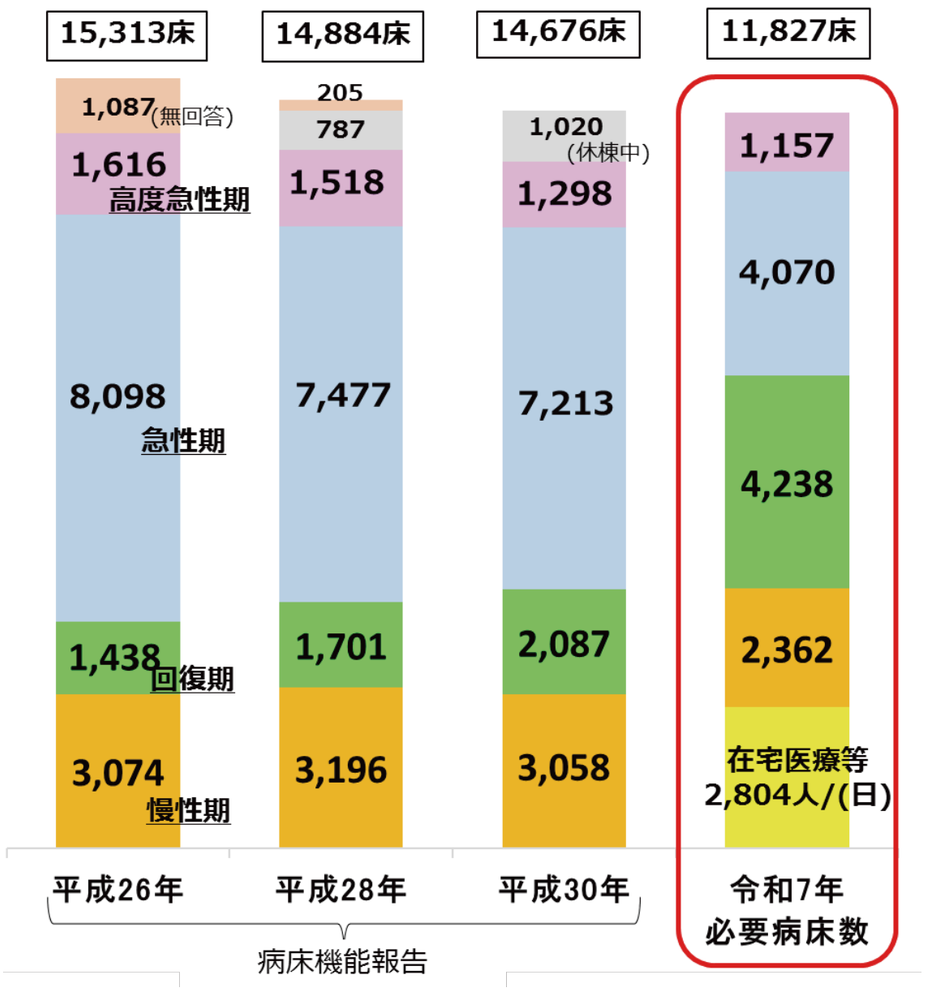
患者の状態の早期安定化に向けて手術など高度で専門的な医療を提供する「高度急性期機能」及び「急性期機能」、患者の在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する「回復期機能」、長期にわたり療養が必要な患者を入院させる「慢性期機能」です。

人口減少や高齢化に伴い、将来の推計では、急性期機能を提供する病床が過剰となる一方で、回復期機能が不足することが見込まれています。また、居宅や介護施設などにおいて医療の提供を受ける「在宅医療等」のニーズも増加していくことが見込まれています。（図2）

そのため、地域医療構想では、地域の実情や患者のニーズに応じて、高度急性期、急性期、回復期、慢性期、そして在宅医療・介護に至るまで、一連のサービスが切れ目なく、過不足なく提供される体制を整備することを目指しています。

（図2）

病床機能報告（現状）と将来の必要病床数（地域医療構想）の比較



地域医療構想の実現に向けて

少子高齢化の進展の度合いや医療機関の数といった医療資源の状況などは、県内それぞれの地域で異なります。従って今後の対策も地域ごとに異なってきます。

そのため、本県では県内6つの地域ごとに、病院、医師会等の医療関係者、市町村などが一堂に会する「地域医療構想調整会議」を設置しています。

この調整会議では、診療実績などのデータを基に現状や課題を確認しながら、将来、各医療機関が地域でどのような役割を担い、どのような医療を提供していくか、また、医療機関がどのように連携して医療を提供していくかなど、将来の医療提供体制についての協議を進めています。（写真）

ちなみに、津軽地域では、弘前市立病院と国立病院機構弘前病院の統合による新たな中核病院の整備が計画されており、地域の救急医療体制の強化や高度・専門医療の提供、若手医師の育成機関としての役割を担うことなどが期待されています。

地域医療構想調整会議の様子

上手な医療のかかり方を考える

地域の医療を守るためには、医療提供側の取組だけでは十分とは言えません。

地域の住民一人ひとりが、地域にある医療機関の特徴や役割などを理解し、上手に医療にかかることも大変重要です。

大病院であればなんとなく安心という理由で、大病院を受診していないでしょうか。また、平日は忙しいからと、休日夜間に受診していないでしょうか。

病院での待ち時間が長くなったりするだけでなく、紹介状なしで大病院を受診すると治療費以外に費用がかかるため、自己負担が増加する等のデメリットもあります。救急外来に患者が集中すると、緊急度の高い患者の受け入れが難しくなるおそれもあります。

皆さん是非、「かかりつけ医」を持ちましょう。

普段から、近隣のクリニックの医師など最も身近で頼りになる「かかりつけ医」で、適切な診療や指導を受けることにより、病気の早期発見や早期治療につなげることができ、また、必要なときには専門医、専門医療機関を紹介してもらうことで、スムーズに高度・専門医療が受けられます。

地域の医療機関が役割分担し、連携しながら地域全体で医療を提供する仕組みができています。

将来にわたり、県民の皆様が安心して医療を受けることができる環境の整備について、医療機関等の関係者としっかりと連携して取り組んでいきますので、皆さんも上手な医療のかかり方について、今一度考えてみてはいかがでしょうか。